

日野市教育委員会 様

学 校 名 日野市立平山小学校

校 長 名 北 里 浩 一
(公印省略)

令和7年度教育課程について(届)

このことについて、日野市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教 育 目 標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調に、心身共に健康で、たくましく生きる人間性豊かな児童を育成する。

ア 目指す児童像

○すすんで学ぶ力(自ら問いをもち、仲間とともに学ぶひらやまっ子)【問題解決力】

○ゆたかな心(いのちと真心を大切にし、すすんで人の役に立つひらやまっ子)

【人間関係形成力】

◎たくましい体(よく運動し、前向きに挑戦するとともに、健康な生活を実践するひらやまっ子)

【実践力】

イ 目指す学校像

本校に関わる人々が、楽しく前向きに生きる力をはぐくむとともに、一人一人を大切にする魅力ある楽しい学校。

○児童が、できる楽しさ・わかる楽しさ・認められる楽しさを味わうとともに、自分と他者の多様な個性を尊重する。

○保護者・地域住民が学校を信頼し、児童を安心して通学させ、自らも参画する。

○教職員が、個性を生かし、専門性を伸ばし、協働する組織の中で自分の力を発揮するとともに、子供のよさを見つけ、褒め、活かす。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

第4次日野市学校教育基本構想に基づき、次のとおり学校の教育目標を達成するための基本構想を定める。

ア 「すすんで学ぶ力」:【問題解決力】を育てるため、一人一人を大切にしたい学び合いを通して、自ら問いをもち仲間とともに追究し、多様に学び、学び方を通して、できる楽しさ・分かる楽しさ・認められる楽しさを味わわせる。

イ 「ゆたかな心」:【人間関係形成力】を育てるため、人や自然との多様な関わりを通して、自他の“いのち”を尊重する態度とともに、人の役に立ち、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

ウ 「たくましい体」:【実践力】を育てるため、子供と学校が主役となる「平山小からだ健やかプロジェクト」を推進し、学校2020レガシーや体育的活動等に取り組むとともに体育科授業改善、基本的生活習慣の確立及び望ましい食習慣の形成、多様な関わりを通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、心身の調和が取れた発達を図る。

エ 一人一人の教育的ニーズに応じた支援のため、相談体制の充実を図るとともに、家庭、幼稚園、保育園、中学校、関係機関と連携し、児童理解に基づいた教育活動を推進する。

オ 防災、防犯・安全への関心を高め、危険を回避する力を身に付けさせるため、家庭、地域社会と連携した安全指導、安全確保の取組を推進する。

カ コミュニティ・スクールとして、学校の教育課題への取組について、学校運営協議会と共有し、保護者、地域住民の参画を推進し、開かれた学校運営を実現する。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ①自ら問いをもち仲間と追究し、できる楽しさ・分かる楽しさ・認められる楽しさを味わわせる。各教科での問い、自力解決、話し合い、まとめ・発信、振り返りの学びのサイクルを推進し、学びの実感と自己評価力を高める授業の展開を図る。
- ②一人一人を大切にしたい学び合いの充実や学習評価の充実に向け、個別最適な学び及び対話・協働的な学びを実践する。そのために、一人1台の学習者用端末を活用した学習内容の蓄積や単元内自由進度学習、ホワイトボードを活用して思考を整理したり、発信したりする授業を推進する。また、より実態に応じた指導ができるよう、第3学年以上で算数科習熟度別指導を取り入れる。
- ③言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するために、言語環境の整備、学校図書館やICTの利活用、体験活動の充実、合科的・関連的な指導の推進を図る。
- ④障害者理解に重点を置いた学校2020レガシーの取組やわかさ学級と通常の学級との交流及び共同学習、副籍事業における交流及び共同学習の推進を通して、共生社会の一員としての資質を身に付ける。

イ 特別の教科 道徳

- ①道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるため、“いのち”を指導の重点とし、道徳科の授業を要として教育活動全体を通じて、道徳教育の充実を図る
- ②自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考え、自己の生き方を考えられるように、道徳教育推進教師を中心に授業改善を進め、一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実する。
- ③道徳授業地区公開講座では“親切・思いやり”について対話する意見交換会を設定し、学校、家庭、地域が連携して子供を受け止め、支える環境の基盤づくりを行う。

ウ 外国語活動

- ①英語に慣れ親しみ、外国の言語や文化を体験的に理解させるためにALTやICTを効果的に活用する。
- ②外国語科との接続に留意し、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識し、相手に配慮しながら積極的にコミュニケーションを図れるよう言語活動を設定する。

エ 総合的な学習の時間

- ①よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくために、各教科等での問い、自力解決、話し合い、まとめ・発信、振り返りの学びのサイクルに基づき探究的な見方・考え方を働かせる探究的な学習を推進する。
- ②農業体験、福祉、健康スポーツ、防災、まちづくりを核としたカリキュラムを構築し、SDGsを推進する。小中9年間を見通し、滝合小学校、平山中学校と連携し、地域と共に“いのち”を学ぶ力を育てる。

オ 特別活動

- ①個性を伸ばしながら、よりよい学級・学校づくりに進んで取り組もうとする態度を育てるために、学級活動における話し合い、合意形成、意思決定の過程を重視する。
- ②児童会活動、クラブ活動を通して、異学年集団で楽しく規律ある活動をしようとする態度を育てる。また、よりよい人間関係を形成する活動に主体的に取り組めるように縦割り班全校遠足を実施するなど、意図的計画的に縦割り班活動を行う。
- ③学校行事の意義や目的を明確にし、学年・学校への所属感や連帯感を深め、協力してより良い学校生活を築こうとする態度を育てる。
- ④キャリア・パスポートを活用し対話的に関わることによって、児童一人一人の自己実現に向けて、目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導とともに、学校、家庭及び地域における学びをキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努める。

(2) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- ① 基本的な生活習慣の確立、学校のきまりや約束の徹底のため、毎週各学級で生活目標を振り返るとともに全校朝会で生活目標の意識付けを図る児童主体の「週リーダー活動」に取り組む。学校運営協議会と連携して、「親子花まる週間」を行い児童の生活習慣を見直す機会とする。
- ② 防災、防犯・安全への関心を高め、危険を回避する力を身に付けさせるため、保護者、地域住民、関係機関と連携し、多様な想定による避難訓練や防災安全指導、通学路点検、家庭訪問、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、地域安全マップ作り、交通安全教室、災害体験者から学ぶ教室などの充実を図る。
- ③ 人権教育の推進、一人一人が大切にされる授業づくり、学級活動、児童会活動の工夫とともに、いじめ見逃しゼロを目指し、「平山小学校いじめ防止基本方針」に基づき、平山小学校いじめ対策委員会を中心に、未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む。第5学年においてSOSの出し方教育を実践するとともに、全校児童に対して、様々な機会を通して援助要請の方法について理解を深める。
- ④ 不登校等の未然防止、早期支援、長期化への対応のため、毎週木曜日実施の生活指導夕会にて情報共有を行ったり、実態に応じて家庭訪問を実施したりする。登校支援委員会で組織的に対応し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関担当者のネットワークを活用しながら相談体制の充実を図るとともに、登校支援教室(ほっとルーム)の支援体制の充実を図る。
- ⑤ 学級満足度調査を実施し、集団の中の一人一人の状況や集団そのものの特色を分析し、よりよい学校生活や人間関係の構築に役立てる。
- ⑥ 子供たちの発達段階に応じた生命(いのち)の安全教育の実施を行い、保護者及び地域への発信を行う。また、文部科学省と内閣府が連携し作成した教材・指導の手引きを活用する。

イ 進路指導

- ① 学級活動を要として教育活動全体を通じて、多様な関わりの中で自分の将来に夢や希望をもち、その実現に向けて挑戦しようとする態度を育てるキャリア教育を推進する。
 - ② 家庭との連携を深め、幼稚園・保育園、中学校との円滑な接続を図るため、かしのきシートを活用する。また、スタートカリキュラム平山小モデルを推進し、新入生に対し、合科的・関連的な指導を行う。
- ## (3) 特色ある教育活動
- ① 第4次日野市学校教育基本構想を具体化し、豊かなスポーツライフや健康的な生活スタイルの確立を目指すため、子供と学校が主役となる「平山小からだ健やかプロジェクト」を推進する。市内のスポーツ団体と連携し選手を招いて体験授業を行ったり、体力テストの結果を踏まえ、体育科授業改善、ロング中休みの継続実施(平山アクティブスポーツ:平スポ)、体育的活動の充実、外遊びの奨励を行ったりしていく。さらに健康的な生活習慣の定着を図る取組を推進する。また、健康で豊かな生活を送るため体育科保健分野と関連させ、感染症予防やがん教育をはじめとした健康教育を推進する。そして、望ましい食習慣形成のため、学校栄養職員や地元農家を活用しながら、給食指導、農業体験を通し、地場産物への理解を深めるなどの食に関する指導を推進する。
 - ② 一人一人が多様な学び方を身に付け、主体的・対話的に学びについて取り組む「一人一人を大切にしたい学び合い」の推進・充実を図る。一人1台の学習者用端末を効果的に活用した実践を行う。
 - ③ コミュニティ・スクールとして、毎月、学校運営協議会を開催し、学校の状況を報告し、議題を共有する。地域社会の教育資源を活用し、農業・栽培、郷土、福祉、文化・芸術、スポーツ、ものづくりについて体験的な学習活動を取り入れ、児童の興味や創造性、感性を育てる。
 - ④ ひのっ子エコアクションを通して、環境保全面から、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。地域の多様な関係者との協働による実践を通して持続可能な地域社会づくりの担い手として必要な資質能力の素地を養う。
 - ⑤ 第二幼稚園をはじめとした就学前施設との連携を推進し、入学後4週間程度に渡るスタートカリキュラムによる円滑な接続を図る。平山中学校との9年間を見通したカリキュラム・マネジメントについて検討を行う。
 - ⑥ 第5学年算数科「正多角形をかく手順を考えよう」、第6学年理科「私たちの生活と電気」、総合的な学習の時間(情報技術、まちの魅力、ものづくり)などを通して、コンピュータに意図した処理を指示する体験をさせながら、プログラミング的思考を育てる。また、身近な生活にコンピュータが活用されていることや問題解決には必要な手順があることに気付き、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度の素地を養う。